

自己評価票

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「や」優しい心で、「さ」さわやかな笑顔、「し」信頼関係を大切に、「い」一緒に楽しくと、独自の理念で認知症高齢者との関わりを大切にしている。また、地域密着サービスとして『やさしい』には、地域の方々との優しい交流の意味合いもあり、運営理念を実現している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	リビングに理念を掲示してあり、ミーティング、スタッフ会議の中で理解しやすく伝えており、全員で共有し合い、ひとつひとつの意味を理解し、日々実践に取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	グループホームだよりを定期的に発行し、分かりやすく伝わるように記載し、ご家族や、地域の方々に理解していただけるよう取り組んでいる。	○	地元の行事に参加させていただき、認知症の理解やグループホームについて伝えていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時に挨拶を交わしたりする中で親交を深めている。また、ホームの行事にご招待し、気軽に立ち寄ってもらえる雰囲気づくりに努めている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の小学校の行事に招いていただいたり、ホームの行事(夏祭り、敬老会、クリスマス会)に近隣の方たちをご招待したり、ボランティアとしてホームに来ていただいたりして、地元の方々との交流に努めている。	○	地域の自治会の行事に積極的に参加していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	行事などにも参加していただけるように、働きかけている。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの関係を崩さないように、職員の異動は最小限に抑えるように考えている。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間計画で内部での定期的な研修会を計画していて、様々なテーマでトレーニングを行っている。外部研修については、その都度職員に情報として連絡し、参加する機会をつくっている。参加者は研修報告書を提出し、質の向上活かしている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同グループの事業所が他に4ユニットあり、常に交流する機会を持ち、情報交換をしている。また、地域の連絡協議会に参加しており、特養、老健、病院療養型、通所などの職員と情報交換や事例検討会を行い、交流の場を持っている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>スーパーバイザーを導入しており、常に管理者や職員の相談に応じれる体制がある。また、月に1回の定例会議で、運営者との話し合える場を持っている。年に2回運営者との個人面談があり、直接悩みや希望、要望を話せる機会がある。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>「自己評価表」の提出、管理者から見た職員の「人事考課表」により個々の職員の勤務状況を把握している。それに基づき個人の面接から問題や悩みを解消し、向上心を持って働ける職場づくりをしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回の相談時からしっかりと状態を把握し、面接を行い、ご本人が必要とされている事を導き出している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回の相談時からご家族の話に耳を傾け、不安、悩みの解消や希望、要望をお聞きしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の相談時から、状態を把握することに努めて面接を行い、ご本人とご家族が必要とされていることを見極めている。他のサービスを利用されていた方は、事業所を訪問し、利用時の状態もお聞きしている。居宅サービスの登録のある方は、介護支援専門員から情報をいただいている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	状態に応じて、外出、外泊を行っていただいたり、ご家族の協力を得て面会に来ていただいたりしながら、徐々に場に馴染めるように工夫している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩であることに尊敬し、入居者様が主体であることを忘れずにサポートさせていただいている。過去に体験したことがある役割を再び持っていただき、様々なことを教わりながら共に家族の一員として暮らしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の心労や想いに耳を傾け、意思を尊重し、安心していただけるホームになるように、ご家族と共に何事にも共感し合えるような関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人とご家族との関係に配慮しながら、少しでも良い関係が保たれるように支援している。面会時にはゆったりと気兼ねをせず、お互いが話し合える場を配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係を大切にし、手紙や年賀状のやりとりを支援している。また、いつでも友人や親戚の方が訪ねて来られることを歓迎している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様が自室で閉じこもることのないように声かけを行い、コミュニケーションをとっている。他の入所者様との関わりが円滑にいくように、職員がさりげなく間に入り、良い雰囲気づくりを心がけている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所時には、ホームから離れてもいつでも相談にのれる事を伝えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と関わりを多く持ち、何を願い、希望されているのかご本人の視点に立ち、より良く暮らしていけるケアに取り組んでいる。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独自の「家族状況とグループホームに期待する事」、「バックグラウンド」、「生活の様子」のシートを利用し、個々の生活歴や状態像の把握に努める。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の記録に1日の言動、行動、身体状況などを詳しく記入し状態を把握している。また、急な変化があった際は、職員全体で話し合い、状態を共有している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントに基づいて、個別の介護計画を作成している。計画作成時は、チームケアのための担当者会議を開催し、意見を反映させた介護計画をたてている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に基づいて援助を行い、3か月に1回の見直しを行っている。また、状態に変化があれば直ちに会議を開き、ご家族や医療機関の関係者などと話し合い、計画の見直しを行い、新たな計画を作成している。計画は職員間で共有している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録に1日の言動、行動、身体状況などを詳しく記入している。「行動計画実施記録」は計画に運動した内容になっており、毎日のケアの実践、結果を記録し、毎月評価を行うことにより介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方のご家族が面会に来られた際は、宿泊できるように寝具などを用意させていただき、ホームと家族が気兼ねなく家族的なお付き合いができるよう、柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	小学校との交流があり、学校行事の際には招いて下さっている。また、ボランティアの方が月1回訪問してくださり、手話を教えていただいている。地域の方との交流もあり、お茶席、手作り雛などボランティアで教えに来ていただいたりしている。消防訓練時は、入居者様、ご近所様も一緒に訓練に参加している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の介護支援専門員の連絡協議会(2か月に1回)に参加し、他のケアマネジャーや他の事業所の担当者と共に連携を持っている。他のサービスが必要な際は利用できる体勢がある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの担当者とは、2か月に1回の「運営推進会議」で情報交換している。不明な点や質問があれば指導していただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>43</p> <p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医は、本人やご家族の希望より選んでいる。ホームドクターが月に1回訪問に来ている。また、事業所近くの総合病院と協定書を結んでおり、ご家族や本人の希望により医師の訪問があり、適切な医療を受け、相談できるかかりつけ医がいる。</p>		
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>ホームドクターは認知症を詳しく理解して下さっており、行動障害が著しい入居者様の相談や診断、助言をしていただいている。</p>		
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>ホーム内に看護師を常勤で配置している。また、訪問看護の看護師とも連携が取れており、利用者様の急変時には迅速な対応ができる体制がある。</p>		
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時は本人が不安にならないように、頻回に面会をしている。また、早期に退院できるようにご家族や医師に、詳しく病状を聞くようにしている。</p>		
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期については、入居時にご家族から希望を聞いている。しかし、ご家族の気持ちに変化がある場合もあるので、機会を見ながら繰り返し話している。また、訪問時間に合わせて、ご家族を交えて話し合いの場を持ったり、かかりつけ医も交えて方針を共有している。</p>		
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>ホームにおいて「重度化した場合の対応に関わる指針」があり、その中でホームができることとできないことを見極めている。かかりつけ医と連携し、できる限り入居者様の意思を尊重し、また、ご家族の意向も尊重しながら支援に取り組んでいる。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入退居の際はご家族、かかりつけ医や関係する担当者間で様々な事項を想定し、十分な話し合いを行って、住み替えのダメージを防止している。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>独自の「プライバシー保護の取り扱いマニュアル」を作成しており、個人情報についての適切な取り扱いをしている。また、一人ひとりの尊厳を大切にしている。</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>自立の可能性を最大限に引き出せるように支援し、残された能力が活用でき、自信が持てるような会話をしたり、自己決定ができるような雰囲気づくりに努めている。</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員中心や業務中心にならないように、一人ひとりが個人としてマイペースで、楽しく暮らしていけるように支援している。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>2か月に1回、美容師が訪問しカットや顔そりを希望に応じて行っている。以前から行きつけがある方は、ご家族に協力を得ながら連れて行ってもらっている。 整容の乱れや同じ服装ばかりの方には、さりげなく一緒に直しサポートしている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人のできる事、できない事をアセスメント(食事、調理の中で)し、一人ひとりの力量に合わせて、食事の盛り付け、調理、配膳、片付けを一緒に行っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	今までの生活習慣を、変えないように配慮している。タバコの習慣のある方は職員が火の管理をし、今までの楽しみを奪ってしまわないようにサポートしている。おやつを楽しみに居室内に持っておられる方は、賞味期限や衛生面に注意しながら支援している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失禁(失敗)のある方には、排泄チェック表で排泄リズムを把握し、誘導を行っている。誘導はさりげない言葉におき換えて行い、羞恥心に配慮している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めているが、個々に合わせて柔軟に対応している。体調などに考慮しながら本人の希望を重要視している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居前の生活リズムを、入居時にご家族にお聞きしている。メリハリのある暮らしも考慮しながら、状況に応じて起床時間や就寝時間、休息時間は以前の生活習慣をくずさない配慮をしている。また、薬に頼ることなく職員の対応で精神的安定を図っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴や趣味を把握し、趣味や役割を再び持っていただき、毎日に張り合いが持てるように支援している。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の所持は、個々の力量に応じて管理している。買い物の際は職員が傍にさりげなく立ち、本人がお金を持ち、支払う機会を作っている。一人ひとりがどこまでできるかを把握しており、力量に応じて支援している。</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>近くの「不動の滝」は散歩コースになっており、マイナスイオンを浴びて心身のリフレッシュの場になっている。屋外で体操をしたり、戸外へ出る機会を沢山つくり支援している。</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>計画をたて、利用者様と相談しながら実行している。最近では家族様の協力を得て遠足で水族館へ遠出をして来た。</p>		
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望があれば、電話や手紙の支援をさせていただいている。</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>面会者と利用者様が気兼ねをせず、過ごせるように配慮している。おやつ時には、一緒に召し上がっていただいたり、散歩に一緒に出かけたり過ごし易い雰囲気づくりをしている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>定期的に「身体拘束廃止委員会」を開催し、職員全員で話し合っている。 全体の勉強会でも、身体拘束について取り上げて内容を把握できており、ケアにも反映されている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	独自の「感染マニュアル」を作成している。定期的な勉強会で感染症の知識を習得し、職員全員が正しい知識を持ち、共通の認識で感染防止に努めている。インフルエンザ予防接種は入居者様、職員全員が接種している。外出の際、手洗い、面会者に手指消毒、手洗いの励行に努めている。	○	インフルエンザ予防接種は職員、利用者全員が行っている。 ホーム内は、1日2回消毒を行っている。 外からホームへ入る際は手洗い、うがい、手指消毒を施行している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、布巾などは、毎日洗浄消毒を行っている。職員、入居者様の手洗いの励行を重要視している。 食材は翌日1日分が前日に市場から届き、常に新鮮なものを提供している。マニュアルに沿って正しい知識を知り、食中毒防止に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	近所の方が訪ねて来やすいように、玄関扉をオープンにしたり、夏期は網戸にして出入りがしやすいようにしている。玄関周辺は明るい雰囲気にするために花を育て、入居者様が手入れをすることで、近所の方が声をかけやすい雰囲気づくりを心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンやブラインド、天窓にはレースカーテンを張ったり、日差しが柔らかくなる配慮をしている。夏期はすだれをかけ強い日差しを避け、季節感を出せる工夫をしている。 季節の花々を一緒に生けたり、テレビの音量も個々に応じて調整している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングテーブル以外に数個のソファを置き、仲の良い方と談話をしたり、一人でくつろげるスペースを作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の準備物説明の際に使い慣れた家具や、生活用品を持って来ていただき、環境が急変しないよう配慮している。本人の趣味に合わせて机や椅子、ソファを用意している方もいる。ベッドでなく布団で生活されていた方は、今までの生活暦を崩さない配慮もしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	1日2回以上の換気を行っている。気候の良い時は窓を開け、季節の風を感じていただいている。温度調節は夏は28度、冬は20度に設定しているが、生活暦上、エアコンの習慣がない入居者様は、扇風機などで調節を行うなど配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能に合わせて各箇所に手すりを設置している。 羞恥心を伴う入浴は見守りのもとで、できるだけ自分で安全に入浴できるように浴室内に手すりや浴槽台、手すり、滑り止めなどで安全を確保している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室ドアには、各自手作りの表札やカラープレートが取り付けられており、個々の力量に応じて、わかりやすい目印的な飾り付けも施している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関の周辺には常に花を植えて花々を眺めたり、手入れや水やりをしたり、利用者様にとって和やかな気持ちになれるようにしている。 また、屋外用テーブル、椅子を置き、日光浴やお茶を楽しめる空間を設けている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
		<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/> ③たまにある
		<input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自然に囲まれた環境を生かして、屋外に出かける時間が増えるように常に考えている。
 自然の中で季節の風を肌で感じたり、マイナスイオンをたっぷり浴び、木々の緑を見て心が癒されることを、入居者様と職員が共感し合い喜びを分かち合いたい。
 散歩をすることで適度に筋力が保て、いつまでもお元気で暮らせるように支援している。
 理念に掲げている「やさしい」を念頭に、常に笑顔が絶えないホームであるように取り組んでいる。